

平成26年度病害虫発生予報第7号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
大豆	吸実性カメムシ類（防除情報第11号継続）	やや多	やや多
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類、オオタバコガ	やや多 並 やや少	やや多 並 やや少
いちご （本圃）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ） アブラムシ類 ハダニ類（注意報第6号） ハスモンヨトウ	並 やや多 やや多 多 やや少	並 やや多 やや多 多 やや少
ブロッコリー	コナガ ヨトウムシ類 オオタバコガ	並 やや少 やや少	並 やや少 やや少
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや少 やや少	やや少 やや少
かんきつ	緑かび病、青かび病 ミカンハダニ	やや少 やや多	やや多 やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

大豆

1. 吸実性カメムシ類

平成26年10月1日付け、**病害虫発生予察防除情報第11号**を継続。なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況

- ア 10月上旬の巡回調査（9筆）の結果、寄生株率は3.8%（1.8%）、株当たり虫数は0.02頭（0.04頭）、発生圃場率は44.4%（21.2%）で、やや多い発生であった。また、一部地域でミナミアオカメムシの発生が見られた。
- イ 10月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は52.0%（40.8%）、株当たり虫数は1.2頭（0.7頭）であった。

ばれいしょ

1. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は2.0%（0.9%）、発生圃場率は40.0%（15.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本虫は塊茎えそ病などのウイルス病を媒介するので発生初期からの防除を行う。
- イ 下位の葉裏に寄生が多いので、薬剤散布は葉裏に薬液が十分かかるようにする。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.4%(0.8%)、発生圃場率は10.0%(12.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 土中のいもが産卵を受けないように土寄せを十分に行う。
- イ 圃場での発生に注意し、ヨトウムシ類と併せて薬剤散布する。

3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は0.2%(5.8%)、発生圃場率は10.0%(41.5%)であった。

- イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月1半旬に増加したが、10月2半旬には減少し、平年より少なく推移している(図)。

- ウ オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月1半旬以降、平年よりやや少なく推移している(図)。

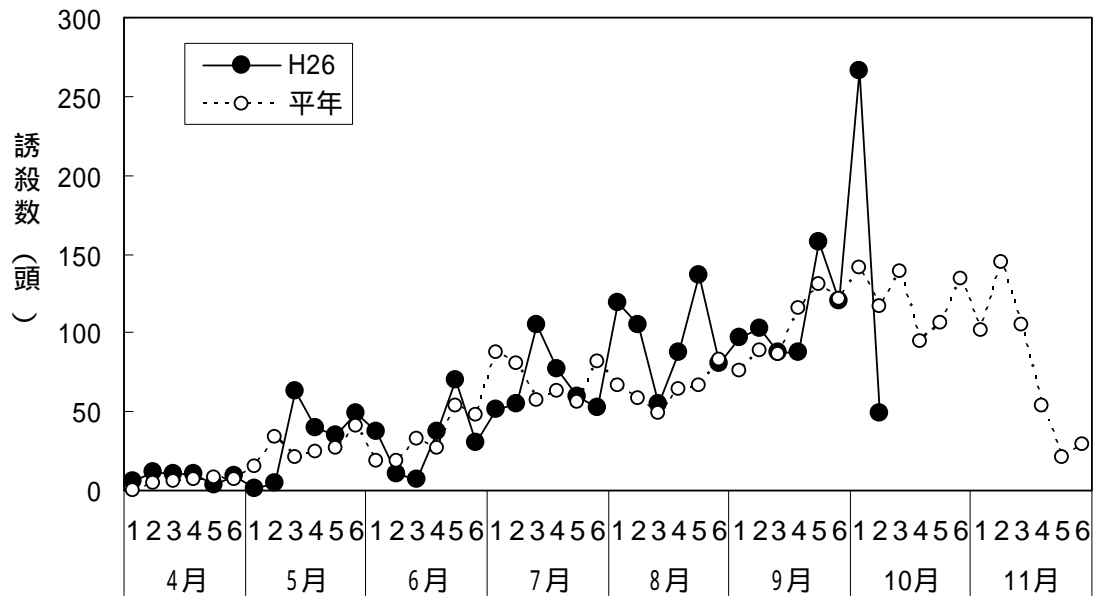


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
平年: H16~25年の平均値(最大・最小値除く) (月・半旬)

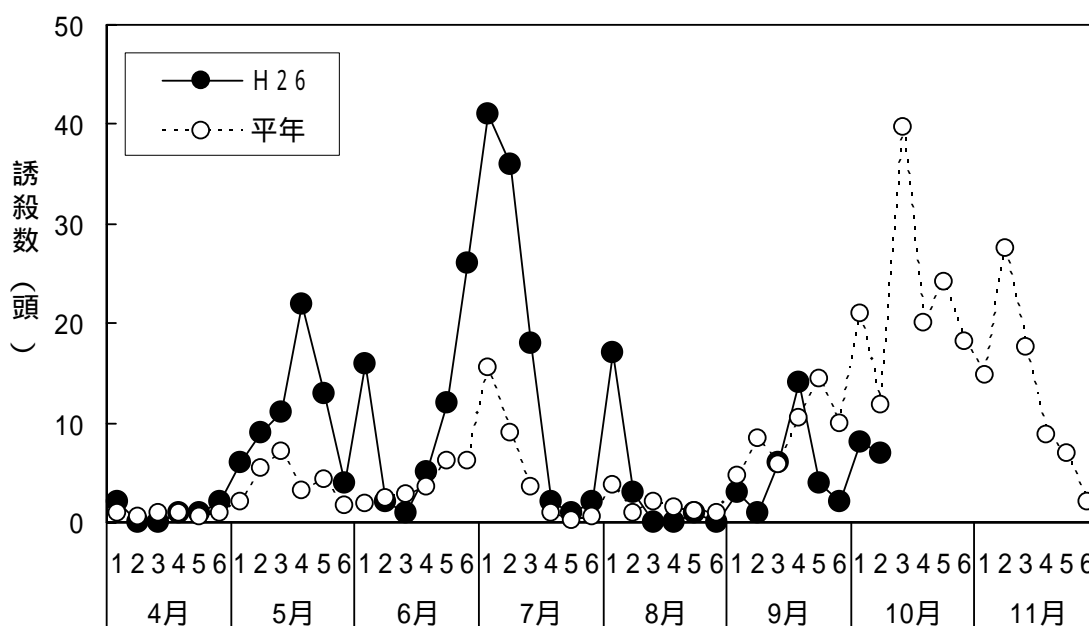


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市小船越町）
H22より粘着板からファネルトラップに変更（月・半旬）
平年：H16～H25の平均値（最大・最小除く）

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査（27筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.4%）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果実への感染を防ぐため、開花期までの予防散布に重点をおく。
- イ 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出して処分する。
- ウ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査（27筆）の結果、発病株率は0.2%（0.1%）、発生圃場率は22.2%（6.0%）であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は2.8%（2.3%）、発生圃場率は40.7%（21.4%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 特に花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

平成26年10月15日付け、**発生予察注意報第6号**による。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は3.5%(9.3%)、発生圃場率は48.1%(73.9%)寄生株率は1.3%(2.5%)であった。
- イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月1半旬に増加したが、10月2半旬には減少し、平年より少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

ブロッコリー

1. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は3.3%(過去7カ年平均寄生株率3.3%)、発生圃場率は58.3%(7カ年平均23.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

2. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、ヨトウガ)

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は1.3%(過去7カ年平均7.7%)、発生圃場率は25.0%(7カ年平均46.4%)であった。ヨトウガの発生は認めなかった(過去7カ年平均寄生株率2.4%、発生圃場率20.2%)。
- イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月1半旬に増加したが、10月2半旬には減少し平年より少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去7カ年平均寄生株率0.6%、発生圃場率9.5%)。
- イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月1半旬以降、平年よりやや少なく推移している(図)。

レタス

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.3%(0.8%)、発生圃場率は6.7%(12.7%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月1半旬に増加したが、10月2半旬には減少し平年より少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

2. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.1%、発生圃場率3.1%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)による誘殺数は、10月1半旬以降、平年よりやや少なく推移している(ばれいしょの項参照)。

かんきつ

1. 緑かび病、青かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.7%)。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は9.2%(3.3%)、発生圃場率は58.3%(32.5%)であった。

